

20周年関連事業へのご協力・ご支援にご参加へのお礼を込めて

この20年NPOの社会的基盤は強化されたでしょうか。NPOと行政、企業との新しいパートナーシップは確立されたでしょうか。



「『市民社会』という言葉、全然ピンと来ないですよ。ね。」この言葉は、20周年記念式典における記念のパネルディスカッションの壇上で、山元圭太さん、今村久美さんがお二人とも言われた言葉。そもそもパネルディスカッションのテーマが「市民社会を俯瞰する―これまでの市民社会これからの市民社会―」だったので、会場の皆さまからの「どのよめきを感じました。そのどのよめきの中には、「よく言った！、市民社会、市民社会と言っているけれど実のところ実態なんてないのではないか」という肯定的などよめきと「市民社会を創ってきているのになんという発言なんだ」という驚きのどよめきの両方があったように感じました。日本NPOセンターにここ5年以内から関わってもらっている若手のNPOリーダーと、日本NPOセンターを創立前から支え、創って来られた先輩とのパネルディスカッションはそれぞれに「社会をよりよくしていくとは何か、そのためのNPOの役割」についてお話しをいただき、これからの日本NPOセンターが大事にしていくキーワードを会場の皆さんと共有のできる貴重な機会となったと思っています。

■ご挨拶いただいた皆さま

逢見直人さん

(日本労働組合総連合会 事務局長)

濱田省司さん

(内閣府 大臣官房審議官)

二宮雅也さん

(1% (ワンパーセント) クラブ会長/

損害保険 ジャパン日本興亜株式会社代表取締役会長)

和田寿昭さん

(日本生活協同組合連合会 専務理事)

■パネルディスカッションに登壇いただいた皆さま

今村久美さん

(認定特定非営利活動法人カタリバ代表理事/

日本NPOセンター評議員)

島田京子さん

(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団専務理事/

日本NPOセンター元副代表理事)

山岡義典さん

(公益財団法人助成財団センター理事長/

日本NPOセンター元代表理事)

山元圭太さん

(株式会社 Publico 代表取締役 COO/

「新しい参加」日米プロジェクトWGメンバー)

この一年、センターでは、既存の事業と並行して20周年記念事業を進めてまいりました。それは、一過性のイベントやキャンペーンで終わらせず、これまでの20年を引き受け、これからの20年を創っていく勢いで進めていきたいという考えからでした。5月の会員総会の前に実施した「『市民の参加の力で社会課題の解決に挑むNPO』が社会に定着するためのNPO支援のあり方について考える」フォーラムや、震災5年総括報告書として作成した「NPO支援組織による災害支援活動―東日本大震災の取組みから考える―」、別でご報告をする市民セクター全国会議2016など、多くの事業において、これまでの市民社会とこれからの市民社会を感じていただいているのではないのでしょうか。

この一年、センターでは、既存の事業と並行して20周年記念事業を進めてまいりました。それは、一過性のイベントやキャンペーンで終わらせず、これまでの20年を引き受け、これからの20年を創っていく勢いで進めていきたいという考えからでした。5月の会員総会の前に実施した「『市民の参加の力で社会課題の解決に挑むNPO』が社会に定着するためのNPO支援のあり方について考える」フォーラムや、震災5年総括報告書として作成した「NPO支援組織による災害支援活動―東日本大震災の取組みから考える―」、別でご報告をする市民セクター全国会議2016など、多くの事業において、これまでの市民社会とこれからの市民社会を感じていただいているのではないのでしょうか。

これからの市民社会づくりのために「新旧NPOの交流促進」マルチス

テークホルダープロセスを重視したマルチステークホルダーアプローチと参加「NPOが主体の社会から信頼を獲得するための評価の実施」などが必要であることがパネルディスカッションで確認されました。

式典でこれからの非営利セクターに求めることをお話いただきました皆さまに改めて感謝をいたします。また、当日会場に参加いただいた皆さま、日本NPOセンターの関係者からの呼びかけに応じて、記念寄付をくださった皆さま、NPOのひろばの読者の皆さまにも深く感謝いたします。

それぞれの事業の様子や結果は日本NPOセンターのウェブサイトに掲載していますので、ぜひのぞいてみてください。今後とも日本NPOセンターをどうぞよろしく願います。

(事務局長 新田英理子)